

ナンバリング			授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E113B004			保育の指導 (環境) (Method of Infant Education)							対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
選択必修		2	2 (R5入学生 以前は3年)	教育学部	後期	火4	日本語				単独					
担当教員	氏名 永田 誠															
	E-mail m-nagata@oita-u.ac.jp 内線 7559															
授業の概要	領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関り、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。本講義では、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即した主体的・自発的な経験が生まれる具体的な場面を想定した保育計画を構想するとともに、振り返りを通した保育を改善する視点を身に付ける。															
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらいと内容について理解を深める。														○		
目標2 現代の幼児を取り巻く自然環境、社会環境の変化について説明することができる。								○								
目標3 現代における幼児の生活経験をもとに、幼児教育における実践事例について理解する。											○					
目標4 子どもの日常生活環境を踏まえた保育計画の立案・実施と、振り返りを通した保育を改善する視点を身に付ける。															○	
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)										2		2		3	3	
授業の内容																
1 幼児教育・保育に関する基本的理解																
2 子どもの発達と環境(1)日常生活と環境のかかわりを考える(グループワーク)																
3 領域「環境」のねらいと内容(1)幼児教育・保育における領域「環境」のねらいと内容																
4 領域「環境」のねらいと内容(2)身近な環境と遊びの工夫																
5 領域「環境」の内容を踏まえた保育実践事例(1)領域「環境」に関する具体的な保育の活動事例から<事前指導>																
6 領域「環境」の内容を踏まえた保育実践事例(2)領域「環境」に関する具体的な保育の活動事例から 3歳以上児の保育																
7 領域「環境」の内容を踏まえた保育実践事例(2)領域「環境」に関する具体的な保育の活動事例から 3歳以上児の保育																
8 領域「環境」の内容を踏まえた保育実践事例(3)領域「環境」に関する具体的な保育の活動事例から 3歳未満児の保育																
9 領域「環境」の内容を踏まえた保育実践事例(3)領域「環境」に関する具体的な保育の活動事例から 3歳未満児の保育																
10 領域「環境」の内容を踏まえた保育実践事例(4)領域「環境」に関する具体的な保育事例を通した学びと援助(保育観察の振り返り)																
11 領域「環境」に関する保育計画の立案と実践(1)保育指導案の作成(情報機器及び教材の活用を含む)																
12 領域「環境」に関する保育計画の立案と実践(2)教材研究・環境構成・援助の工夫(情報機器及び教材の活用を含む)																
13 領域「環境」に関する保育計画の立案と実践(3)保育実践と相互評価 3歳以上児の保育																
14 領域「環境」に関する保育計画の立案と実践(3)保育実践と相互評価 3歳未満児の保育																
15 子どもの「生きる力」の基礎を育む「環境」と体験の関わり(保育実践の振り返りを含む)																
ラーニングログ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		・本講義では、幼児教育・保育施設での保育観察・保育実践を実施する。 ○。 ・多様な見方に気づくため、保育観察・保育実践について相互評価を通した自己・グループでの振り返りを重視する。					工夫その他の								
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		保育指導案の作成、教材研究・開発(15h)													
	事後学修		講義内容の振り返りによる知識の定着と課題レポートの作成(30h)													
	想定時間合計															
教科書		必要な資料については、授業内で配布する。														
参考書		・文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社、2017年(ISBN : 978-4805402580) ・文部科学省『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館、2018年(ISBN : 978-4577814475)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末課題レポート		30%	○	○	○	○						
	保育観察と保育実践への取り組みと省察		50%	○	○	○	○						
	授業課題への取り組み等		20%	○	○	○	○						
注意事項	本講義は、一部でグループワークや保育観察・保育実践といった演習形式にて進めるため、受講生の積極的な授業参画を望む。 授業・課題への取り組み状況などは、成績評価に厳密に反映する。												
備考	履修者の関心ならびに授業の進捗状況によって、講義内容・計画を変更することがある。												
リンク													
	URL												